

## 第2章 南草津の現状と課題

### 1 南草津のエリアと拠点性

第5次草津市総合計画では、草津市の将来の都市構造の考え方において、南草津は図2-1のとおり、草津駅を中心とするにぎわい拠点（北部中心核）と対をなす南草津駅を中心とするにぎわい拠点（南部中心核）として位置付けられている。また、草津市都市計画マスタープラン<sup>10</sup>では、「草津の南部副都心」として商業・業務・文化情報機能等を有する健全な市街地と魅力ある駅前空間の創出が掲げられている（草津市2006：28）。

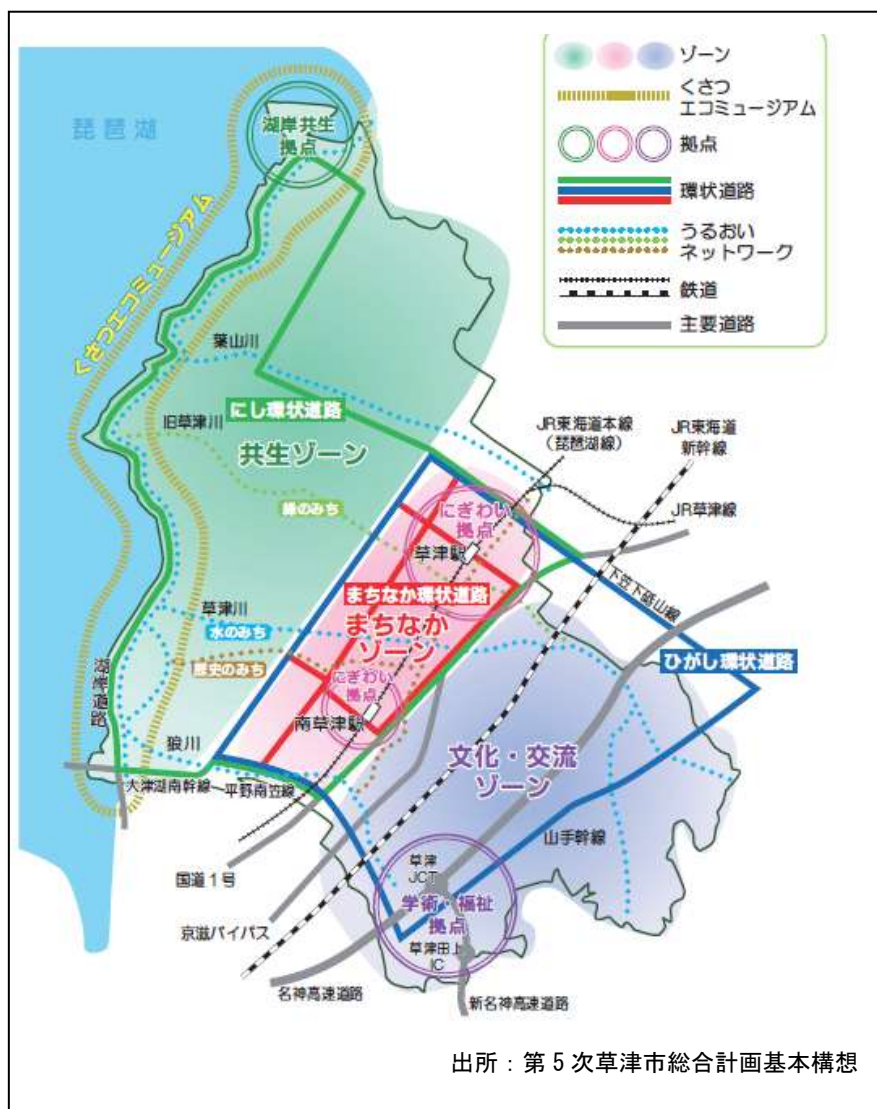


図2-1 草津市の将来都市構造

<sup>10</sup> 2006年から2020年までの草津市の都市づくりの基本的な方向性を定めた計画である。

南草津という名称は、字名等の旧来の地名に由来したものではなく、1994年の南草津駅設置にともなって市民に広く認識されるようになった比較的新しいものであるため、その対象エリアについては明確に定まったものはない。

そのため、考え方の一つとして、南草津のエリアを広域的には琵琶湖岸から立命館大学まで幅広く捉えることができる。しかし、このように広域的に捉えると、工場地帯周辺、立命館大学周辺、びわこ文化公園都市周辺等、それぞれのゾーンごとに特性があるためにそれぞれが抱える課題も異なり論点が拡散する可能性がある。

そこで、ここでは狭義に捉え、対象地域内でもっとも利用者が多く、住民、通勤者、通学者等、多様な人々の共通のテーマとなり得る南草津駅周辺を南草津と定義する。具体的には徒歩圏内を想定し、南草津駅を中心に半径約800m圏内<sup>11</sup>、概ね京滋バイパスから南草津駅西土地区画整理事業区域に至る範囲を対象としたエリアとする。ここでは便宜上、参考資料1の枠で囲った領域とし、野路1～2丁目、野路5～7丁目、南草津1～5丁目とする<sup>12</sup>。

このように狭義に南草津を捉えた場合、駅の乗降者数は欠かすことができない重要な要因であり、駅周辺の拠点性にも着目する必要がある。なお、南草津駅の乗降者数は、2007年には1日当たり41,240人で滋賀県内3位であったが、新快速停車駅となった2011年には1日当たり49,388人となり、石山駅を抜いて滋賀県内2位となっている。

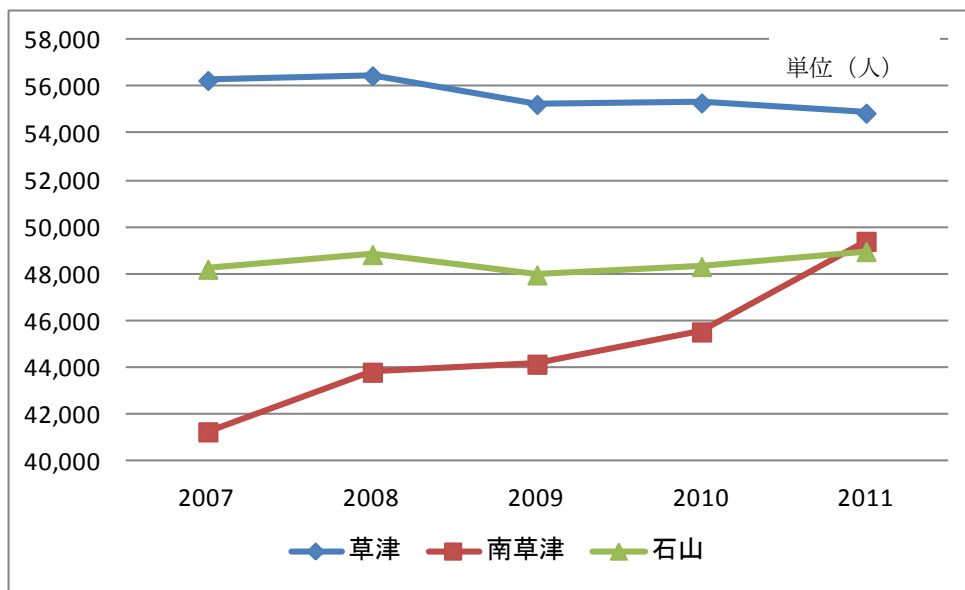
表 2-1 滋賀県内の乗降者数上位10駅(2011年)

	駅名	乗降者数	単位 (人)
1	草津	54,870	
2	南草津	49,388	
3	石山	48,950	
4	大津	34,606	
5	近江八幡	34,270	
6	瀬田	34,104	
7	守山	30,680	
8	野洲	27,402	
9	膳所	25,310	
10	栗東	24,518	

出所：西日本旅客鉄道（株）提供資料より作成

<sup>11</sup> 800mは徒歩10分で移動できることを意味し（不動産の表示に関する公正競争規約施行規則第10条第18号）、不動産情報サイト事業者連絡協議会の調査(2012)でも徒歩圏内と認識する人が最も多い(38.4%)。

<sup>12</sup> 実際は南草津をこのように明確に定義できないが、ここでは人口統計の便宜上、このように定義する。



出所：西日本旅客鉄道（株）提供資料より作成

図 2-2 滋賀県内の上位 3 駅の乗降者数の推移

## 2 短期間で発展を遂げた南草津

南草津は古くは中世(奈良時代から室町時代前期頃まで)に古代官道のとうさんどう東山道が通る場所であり、生い茂った萩の間に小川が流れる景勝地「野路の玉川」として知られ、数多くの歌人が訪れ詩を詠んだ場所として伝えられている。

江戸期には東海道が整備され、しだいに廃れていくこととなるが、東山道沿いには民家が点在する状況が続いた。その後、明治期に鉄道の敷設がなされると、しだいに住宅も増え始め、1960年代の高度成長期になると、白物家電の製造を中心とした大企業の工場が山手側に集積するようになったが、それでもまだ現在の南草津駅のあたりは森林で覆われた状態であった。

現在の南草津駅は、狭間池を埋め立てて造成した場所にある。1980年に草津市が草津駅との相乗効果でまちを発展させるために新駅を設置しようと計画して掲げた「南部副都心構想」<sup>13</sup>のもと、1986年の草津市南部新駅設置期成同盟会の発足を経て、1994年9月に設置されたものである。

また、1994年3月には立命館大学びわこ・くさつキャンパスが開学した。開学当初は理工学部の1学部のみであり、その学生数も約4,600人であったが、2012

<sup>13</sup> 草津市は1980年に第2次草津市総合開発計画を策定し、南部副都心整備構想を提唱した。

年現在では7学部7研究科となり、学生数も約18,000人になっている(表2-2)。

立命館大学が新キャンパスを建設する際、数ある立地の候補地のうちから草津市を選んだ理由としては、名神高速道路と京滋バイパスの結節点として陸上交通の要衝であったこと、南草津駅の建設予定があったこと、南草津駅から山手に幹線道路を整備する計画があったこと、大企業の工場が集積していたこと、県内の子どもが増加傾向にあるにもかかわらず大学の数が少なかったこと等が挙げられ、産学連携における今後の展開やネットワークを重視した戦略があったとも言われている<sup>14</sup>。

そして、この1994年の南草津駅の竣工と立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開学を機に、南草津一带では急速に宅地開発が進み、駅前にいくつかの大型マンションが建設される等、新たな住民の増加とともに10数年の間に駅周辺は大きく様変わりした。



出所：草津未来研究所撮影 2012. 11. 19

図2-3 南草津駅西口前のマンション群

<sup>14</sup> 1989年に立命館学園と滋賀県、草津市との間で公私協力の覚書が交わされ、草津市での新キャンパス開設が決定的となった(立命館百年史編纂委員会 2013：526-562)。



出所：草津未来研究所撮影 2012. 11. 19

図 2-4 南草津駅と西口前のロータリー

表 2-2 立命館大学びわこ・くさつキャンパスの学生数

【学部】									
	入学定員	編入定員	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生	最低在学年限超過者	合計
経済学部	735		763	787	741	853		254	3,398
経営学部	760		788	810	831	915		281	3,625
理工学部	872	32	959	1,054	963	978		325	4,279
情報理工学部	440		472	569	430	469		171	2,111
薬学部	100		101	113	134	91	92		531
生命科学部	280		313	312	283	268		71	1,247
スポーツ健康科学部	220		218	242	226				686
合計	3,407	32	3,614	3,887	3,608	3,574	92	1,102	15,909 (A)

【研究科】	
	合計
経済学研究科	95
経営学研究科	98
理工学研究科	1,175
テクノロジー・マネジメント研究科	145
スポーツ健康科学研究科	55
情報理工学研究科	148
生命科学研究科	124
合計	1,840 (B)

(A) + (B) = 17,749人

出所：立命館大学ホームページより作成

現在の南草津の世帯数、世帯人員、住宅所有の内訳については図 2-5 のとおりである。南草津での持ち家比率は 45.3%であり、草津市全体では 55.4%であるから、南草津は草津市全体より持ち家に住む世帯が 10.1%少ないこととなる。

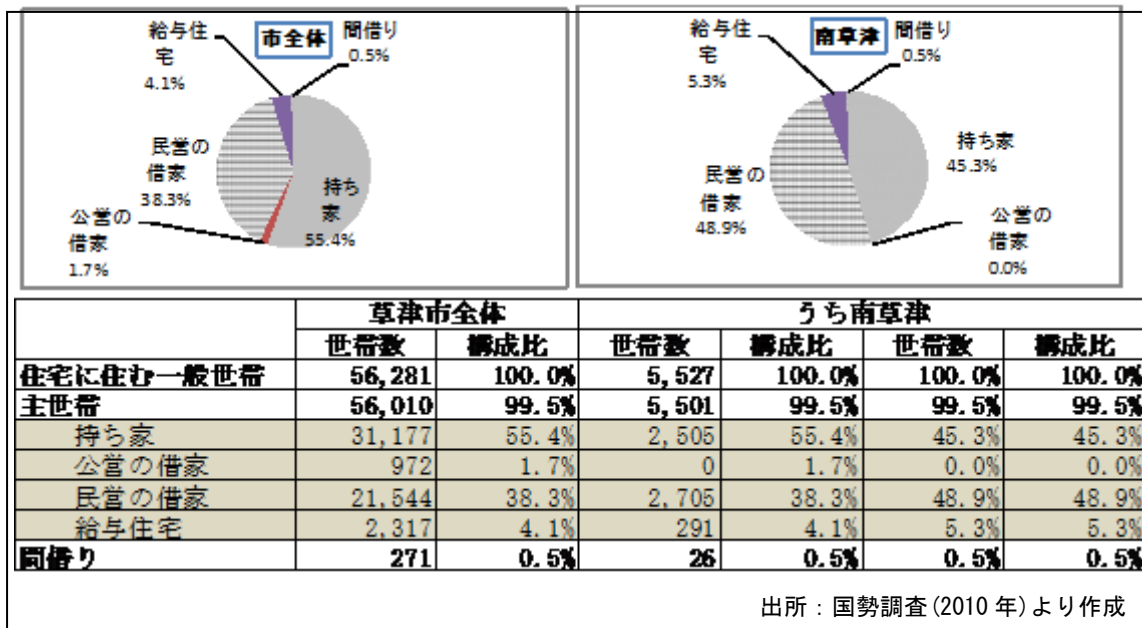


図 2-5 住宅の所有関係

また、南草津の一般世帯の構成の内訳は、図 2-6 のとおりである。南草津は、単独世帯が 52.0%、核家族が 43.3%であり、草津市全体ではそれぞれ 42.4%と 49.3%であるから、南草津は市全体より単身世帯が 9.6 ポイント高く、核家族が 6.0 ポイント低いことがわかる。

これら住宅所有関係や世帯構成比から、多世代同居が少ない状況がわかり、都市化が進む草津市<sup>15</sup>とそのなかの南草津の現状がわかる。

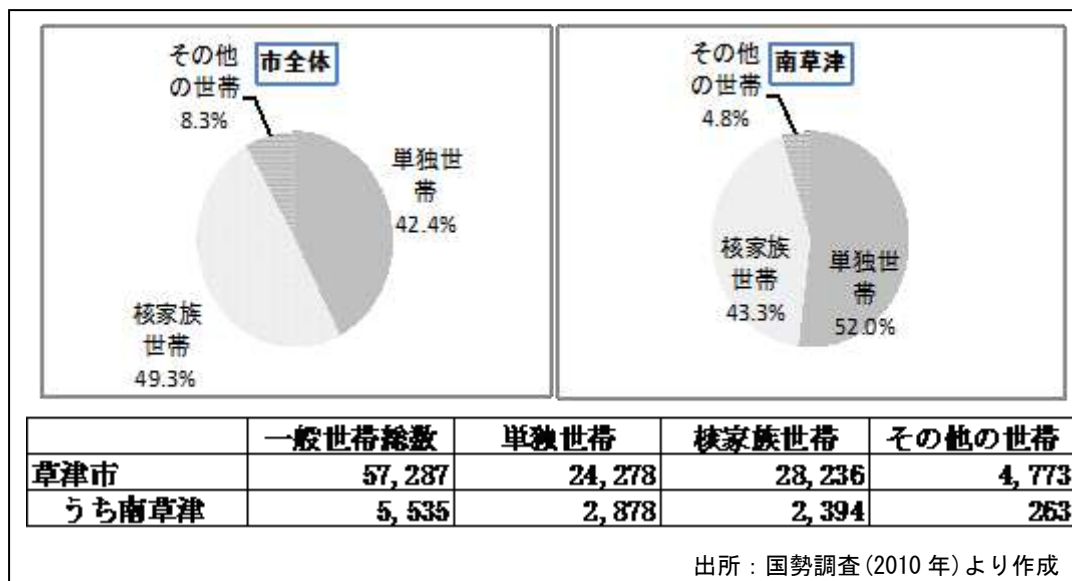


図 2-6 一般世帯の構成の内訳

<sup>15</sup> 単身世帯と核家族世帯を合わせた割合は、滋賀県内市町のうち草津市が最も高い(91.4%、2010年)。

### 3 地域と住民との関係

住民の数については、住民基本台帳と国勢調査で隔たりがあるが、南草津駅周辺<sup>16</sup>ではこの隔たりが特に大きく現れている。

図 2-7 で 2010 年 10 月 1 日現在の草津市全体の総人口を見てみると、草津市全体では、住民基本台帳が 122,423 人であるのに対し、国勢調査は 130,874 人である。一方、南草津駅周辺では、住民基本台帳が 11,002 人であるのに対し、国勢調査は 13,012 人である。

草津市全体で 6,942 人の隔たりがあり、南草津駅周辺で 2,010 人の隔たりがある。これは、草津市全体と南草津駅周辺でそれぞれの住民基本台帳ベースの人口を分母にした場合、隔たりが前者は 1 割に満たないが、後者は 2 割に迫る勢いであることを示している。

また、年齢層ごとに比較してみると、人口ピラミッドからも明らかであるが、15 歳から 24 歳までの年齢層で最も隔たりがある。これによれば、同年齢層では、草津市全体で 31.0% (19,489 人中 6,049 人) の人が住民登録しておらず、なかでも南草津駅周辺では 53.5% (2,591 人中 1,387 人) の人が住民登録をしていないことがわかる。

住民登録をせずに住んでいる若者は、転勤等で一時的に住むサラリーマンも考えられるが、近隣のびわこ文化公園都市内に大学が 3 箇所あることや町内会長の話<sup>17</sup>等から、その多くが大学生であることが推察できる。

このことは、「住民を対象とする行政を適正に行い、また、住民の正しい権利を保障するため」<sup>18</sup>にも望ましいことではなく、危機管理上でも問題となり得る可能性がある。

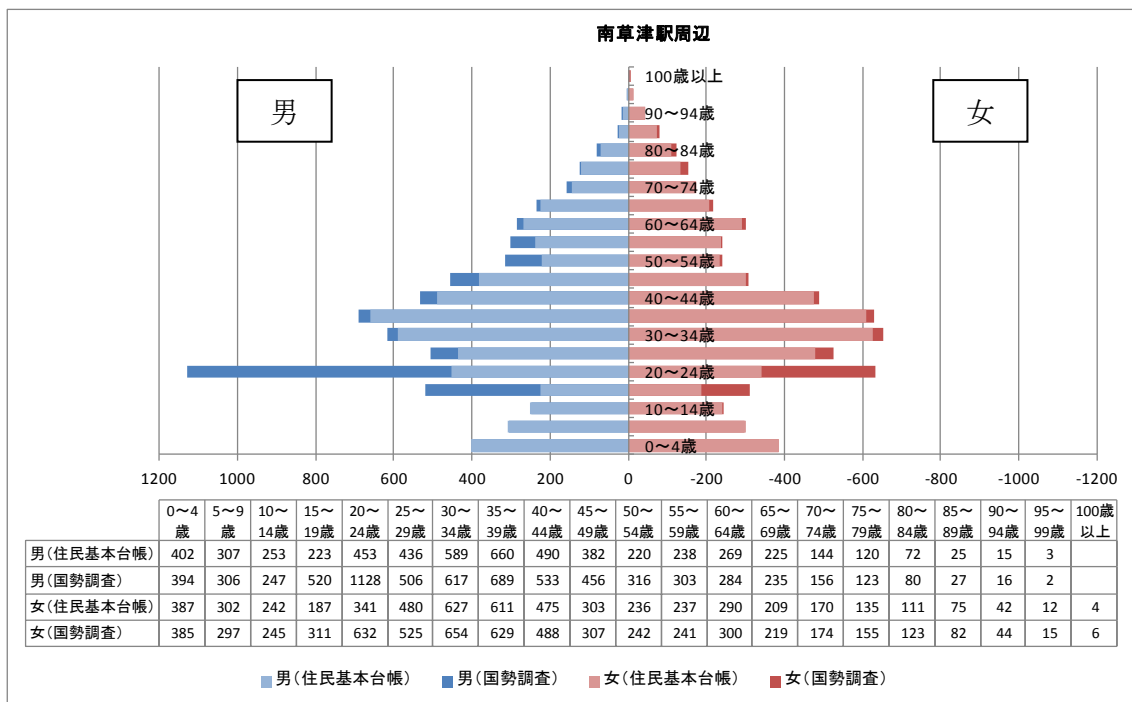
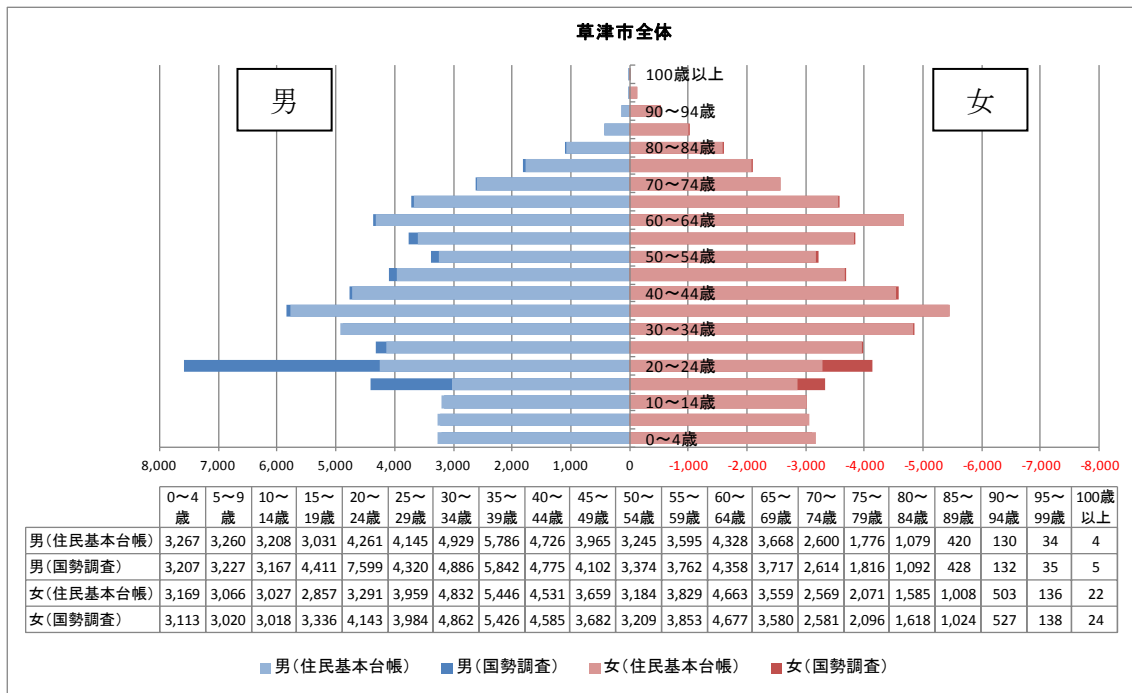
なお、参考までに先の町内会長によれば、町内会に加入している者のうち、ワンルームマンションに住む単身の学生が多くいるが、彼らが清掃等の町内会の行事に参加することは少なく、コミュニティが希薄化する一因にもなっているようである。

---

<sup>16</sup> 特徴をわかりやすく捉えるため、P10 で定義した南草津に野路町、野路 3～4、7～9 丁目を加えた数値を用いて比較した。

<sup>17</sup> 野路町内会長への野路町の現状についての聞き取り調査による (2012 年 9 月 26 日)

<sup>18</sup> 「住民基本台帳法等の施行について」(自治事務次官通知、1967 年 9 月 25 日自治振第 147 号)



	草津市全体				南草津			
	男	女	合計	うち15歳~24歳	男	女	合計	うち15歳~24歳
住民基本台帳 A	61,457	60,966	122,423	13,440	5,526	5,476	11,002	1,204
国勢調査 B	66,869	62,496	129,365	19,489	6,938	6,074	13,012	2,591
差 A-B	-5,412	-1,530	-6,942	-6,049	-1,412	-598	-2,010	-1,387

出所：国勢調査(2010年)および草津市住民基本台帳(2010年)より作成

図 2-7 草津市全体と南草津駅周辺の人口分布の比較



#### 4 商業の偏りから見る駅前の様相

南草津では商店街連盟のような業種横断的な公式の組織がなく、草津商工会議所に属している商店も少ない<sup>19</sup>。南草津の商店に連携の呼びかけを行っている飲食店の個人経営者によれば、費用対効果の面で資金を出してもそれに見合ったメリットが見えにくいため、南草津の商店間の横のつながりをつくって地域一帯を面で見せる取組みを行うのも難しいようである<sup>20</sup>。

南草津のまちのスポンサーの役割を担う者がいないこの状況を戸所の言葉を借りれば、町衆がいないとみることもできる。町衆とは、「自分が生きる地域の過去・現在・未来を語れ、その地域を時代の変化に対応して良くしていこうと自己実現できる人」（戸所 2010: 10）であり、多くの場合、その重要な役割を地元の商業者が担っている。南草津はまだ商業地としての歴史が浅いことと、商店の業種の構成がそのような状況を生み出しているとも考えられる。

ここで、南草津の商店の業種の割合を見てみると、2012年3月時点で図2-8のとおりであった。飲食店（67店舗）と美容サービス関連の店舗が際立って多く、全体の50%の割合を占めている。一方、用品を売る店の割合は少なく、17%にとどまっている<sup>21</sup>。

なお、飲食店のなかでは、居酒屋やバー等の遊興飲食店の割合が約半分を占め、一定程度、対象者が絞られていることがわかる。業種の割合と立地から考察すれば、南草津には、日中は主に美容を求める若者や女性が集まり、夜は居酒屋で飲食を求める男性が多く集まる様相があるものと推察できる。

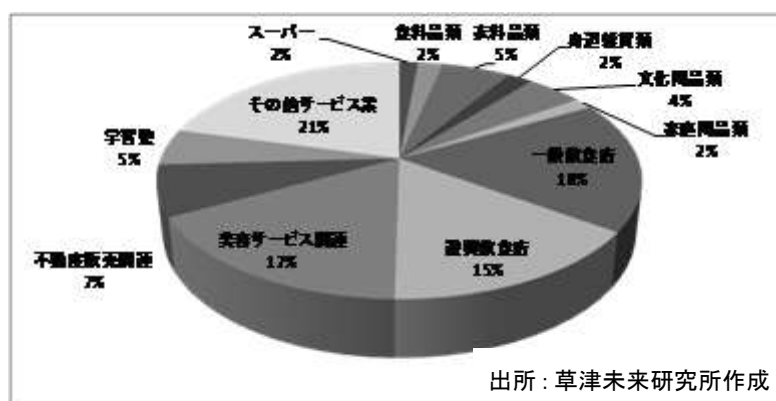


図 2-8 南草津の商業の割合

<sup>19</sup> 2012年8月21日、草津商工会議所職員にヒアリング調査を実施した。

<sup>20</sup> 2012年9月30日、立命館大学サービスラーニングの学生3名とともにヒアリングを実施した。

<sup>21</sup> 2012年2月9日、当研究所による南草津の現地踏査により、外部からの目視で店舗用途を調査した。

## 5 都市施設等から見る拠点機能の弱さ

南草津の都市機能を分析する際に、都市施設の立地状況は1つの手がかりとなる。対象とする都市施設は、都市計画法第11条で示された都市施設（空地、水路、住宅、流通業務団地、そのほかの施設を除く）とそれに準ずる施設とする。

本来であれば、その施設で提供されるサービスの内容や規模にも配慮する必要があるが、ここでは数に着目することとし、それを一覧にしたものが表2-3である<sup>22</sup>。

表2-3 都市施設等（都市計画法第11条関連）

分野	詳細	南草津	隣接（圏域から200メートル圏内）
交通	鉄道	JR南草津駅	なし
生活	市役所	市民交流プラザ	玉川市民センター
	公園（都市公園）	南草津西公園 南草津北公園 さわ公園 東山道記念公園 はさま公園	野路蓮池グラウンド
	公園（街区公園）	野路岡田児童遊園 野路小林児童遊園 野路姥ヶ尻児童遊園	野路池之尻児童遊園 馬池北児童公園 野路中央児童遊園 馬路南児童遊園 野路中山田児童遊園 野路片原児童遊園
	生活環境	草津警察署南草津駅前交番 墓地 1 斎場 1	湖南広域消防局南消防署 草津玉川郵便局
	商業施設	総合スーパー 4	総合スーパー 1
	娯楽	銭湯 1 総合娯楽施設 1	総合娯楽施設 2 ゴルフクラブ 1
医療	病院	総合病院 1 内科 2 小児科 1 精神科 3 産婦人科 1 整形外科 1 皮膚科 1 歯科 7 眼科 2 耳鼻咽喉科 1	内科 1 歯科 1 眼科 1
福祉	保育園	ののみち保育園	野路保育園
	高齢者施設	特別養護老人ホームやわらぎ苑	なし
教育	幼稚園	なし	老上幼稚園 矢倉幼稚園
	学校	なし	老上小学校 老上中学校 玉川小学校 矢倉小学校 光泉中学校 光泉高等学校
	公民館	なし	玉川公民館
	図書館	南草津図書館	なし
	文化ホール	しが県民芸術創造館	なし
	スポーツ施設	民間会員制室内運動施設 2	なし

出所：草津未来研究所作成

<sup>22</sup> ゼンリン住宅地図（2012年11月）および2012年11月の現地調査による。

駅周辺の施設の数だけを見れば、福祉機能を備える施設と生涯学習も含めた教育機能を備える施設が少ないことがわかる。さらに詳細を見てみると、福祉分野の現在の都市施設では定員が周辺の人口規模のわりに小さく、利用できる人も限られている。また、教育分野の現在の都市施設では、子どもの教育のための幼稚園や学校はなく、市民交流プラザの貸館スペースがあるものの、近隣の大学や商業者を十分に生かした生涯学習の場にはなっていない。

さらに、回遊性のある場所の不足や長時間滞在する場所が不足していることもわかる。南草津には、表 2-4 のとおり都市公園が 5 箇所あるものの、比較的小規模であり、周辺施設との連携も見られないため回遊性に乏しい。一人当たりの都市公園の面積を見てみても、市全体は 4.73 m<sup>2</sup>であるのに対し<sup>23</sup>、南草津は 1.66 m<sup>2</sup>となっており、公園自体が不足気味であることもわかる。

表 2-4 南草津の都市公園

	公園名	面積 (m <sup>2</sup> )	所在地
1	はさま公園	2,003	野路一丁目4番9号
2	南草津駅東山道記念公園	5,095	野路町字片原3034番地他
3	南草津北公園	2,492	野路町字岡田765番1他
4	さわ公園	1,491	南草津四丁目8番
5	南草津西公園	1,292	南草津三丁目31番

	面積 (m <sup>2</sup> )	人口 (人)	一人あたり面積 (m <sup>2</sup> /人)
草津市全体	590,141	124,624	4.73
うち南草津	12,373	7,426	1.66

出所：草津市公園緑地課提供資料より作成

また、南草津の都市公園 5 箇所のうち 3 箇所の公園には 2013 年 2 月現在で遊具が設置されていない。これは、区画整理内の公園であるため、住民の声を聞きながら遊具設置を進めていくという開発当初からの計画ではあるが、住民にそのことが十分理解されているかは定かではない。例えば日常的に公園を利用者している人に聞いてみると、「なぜこんなに小さな子どもが多い地域に遊具がないのか不思議」<sup>24</sup>と

<sup>23</sup> 前出の全国都市のサステナブル度評価では、草津市は 630 都市中 471 位である。

<sup>24</sup> 2012 年 11 月の平日の昼前に南草津西公園を利用していた 2 組の親子からのヒアリングおよび子育てサークル「玉っこひろば」代表者からのヒアリングによる。

いう声も聞かれる。また、先の5つの都市公園内では、近隣の住民の迷惑になるとの理由でボール遊びが禁止されており、その使い勝手の悪さからグラウンドがあっても閑散とした状態であり、コミュニティ形成の場として十分に機能しているとは言い切れない。



出所：草津未来研究所撮影 2012. 11. 19

図 2-9 南草津西公園の日中の風景



出所：草津未来研究所撮影 2012. 11. 19

図 2-10 南草津北公園に設置された総合遊具

## 6 地域の声から見る南草津の一側面

### (1) 南草津の強みと弱み

南草津まちづくり研究会では、南草津のSWOT分析を行い、そのなかで内部の強みと弱み、外部の機会と脅威について整理した（参考資料 2）。強みについては、南草津駅から新快速で京都駅まで 17 分、大阪駅まで 47 分と京阪神に近いこと、工場の集積と大学の立地状況から生産年齢人口を集めやすい都市構造であるということ等が挙げられた。地の利に関する意見が多く特徴的であった。

また、弱みについては、憩いの場としての魅力の未成熟なこと、住民間または住

民とまちのつながりが希薄なこと等が挙げられた。まちの質感を高めるための意見が多く特徴的であった。

その他、機会については新快速停車によって通勤・通学圏が広がったこと、脅威についてはグローバル化と世界経済の景況による製造業の製造拠点の不安定さが挙げられた。

これらをもとに南草津まちづくり研究会<sup>25</sup>では議論を行い、後述する「南草津まちづくり企画案」を作成し、南草津に不足しているものやこれからの南草津のあるべき姿について検討した。

## (2) 不動産業者の声

南草津で居住を検討している人の地域へのニーズを探るため、南草津に販売事務所がある不動産業者または南草津で住宅販売を手がける不動産業者 10 社に対し、ヒアリング調査を行った<sup>26</sup>（参考資料 3）。その結果、いずれの業者においても、「駅に近く、発展し続ける、新しいまち」というイメージをもった顧客が来ていることがわかった。また、職場への利便性を求めて来る顧客が多いため、居住場所で他に検討している場所は事業所が多い草津、瀬田、石山を候補地とする傾向があるようである。

さらに、南草津駅が 2011 年 3 月に新快速停車駅となってからはいずれの業者でも顧客が増え、それまでは空室が目立っていた駅前の分譲マンションも完売となり、賃貸アパートは現在でも新築物件の応募が始まると、2 週間程度ですぐに満室になる状態が続いているようである。

これらのことは、裏を返せば、南草津より利便性の良い場所があれば住民が短期間で一気に流出してしまう危険性をはらんでいることを意味している。

そのほか、南草津は周辺地域と比べると地価が高く、戸建は 1 区画 180 m<sup>2</sup>以上という条件<sup>27</sup>もあって、顧客は新築で戸建を建てるよりも分譲マンションや賃貸アパートを選択する傾向があることも調査により明らかになった。

---

<sup>25</sup> 南草津のまちづくりの将来ビジョンを検討するため 2012 年 1 月から 2013 年 3 月まで設置したものであり、立命館大学、草津商工会議所、草津市役所のメンバーで構成されている。

<sup>26</sup> 2012 年 11 月から 12 月にかけて立命館大学大学院地域共創准研究員と共同調査を行った。

<sup>27</sup> 野路西部地区地区計画（2006 年 4 月 28 日草津市告示）

### (3) 地域住民の声

南草津が都市整備される際に地元の人々が理念を共有し、新しくできるまちに込めた想いを知る手がかりが、南草津駅西口前の東山道記念公園にある。2010年の野路西部土地区画整理事業の際に建てられた記念碑に刻まれている文章がそれである（参考資料 4）。そこには、南草津で多くの人々が出会い、活発な交流によってまちが成長し続けていくことを求める記述がある。

しかし、現状をみてみると、若い世代を中心に多くの人々が行き交うようになったものの、大学も企業もキャンパスや工場内で日中の生活が完結することができるため、産官学の活発な交流はあまり進んでいないようである。また、先の表 2-3 によれば、新たな交流を生む機能をもつ都市施設のうち、最たるものが講座機能と貸館機能をもつ市民交流プラザ（野路一丁目 15-5）であるが、いずれも小規模であり、費用対効果等から民間でできる広報手段も限られているため、産官学の交流の広がりについても限界がある。そのほか、都市公園（前出表 2-4）も小規模であること等から、市民の憩いの場として成熟しておらず、イベントの開催も難しく、新たな交流も生まれにくくなっている。

しかし、一方では子育てサークルを通じた交流も生まれ始めている。かつて、市民交流プラザで子育て連続講座を受講した母親たちが、講座終了後に自主的に子育てサークル（2005年にはNPO法人元気っずミーオとして法人化）を作り、その参加者がしだいに増え、最終的に活動場所が手狭になって私立保育園を開設した（2008年）という事例もあった<sup>28</sup>。

そして、その後も南草津には子どもが増え続けていることを受け、先のサークルの経験者が核となり、2012年には再び新たな子育てサークルとして「玉川学区子育て応援団ネットワーク玉っこひろば」が立ち上がっている。ここの主な対象者は未就園児の親子であるが、子どもを応援する者であればとくに参加の制限を設けていないのが特徴である。実際、現地調査時でも、立命館大学生や更生保護女性会の高齢女性、さらに写真撮影のボランティアとして単身の高齢男性の参加があった。

その子育てサークルで保護者を対象に南草津に関する不満を聞いた調査<sup>29</sup>では、

<sup>28</sup> 2009年、NPO法人元気っずミーオ代表兼さくら坂保育園の園長へのヒアリングを実施した（坂居 2010）。

<sup>29</sup> 2012年 11月 12日、立命館大学大学院地域共創准研究員と共同調査を行った。

下記のような意見が出た。買い物のしやすさ等の住環境には満足しているものの、子どもを連れていける場所が少ないことへの不満はあるようである(参考資料5)。

- ・南草津駅周辺の公園に遊具がなく、子どもを遊ばせることができない
- ・雨の日に子どもを遊ばせる場所がない
- ・駅周辺に保育所がなく、駅を利用して通勤するにもいったん遠ざかって往復する動線になってしまう
- ・子育てサークルを除くと、子どもを連れて行く場所が駅前のスーパーか図書館ぐらいしかない
- ・子育てサークルが学区民や市民で限定されている場所が多く、生活圏に合っていない



出所：草津未来研究所撮影 2012. 11. 12

図 2-11 東山道記念公園内の記念碑



出所：草津未来研究所撮影 2012. 11. 12

図 2-12 子育てサークルの活動の様子（玉川市民センター）

そのほか、交通の分野においては、慢性化している南草津の交通渋滞に対しても「草津市民の交通に関するアンケート調査」<sup>30</sup>において、地域住民から改善を望む声も聞かれる（図 2-13）。これらの交通の問題に対しては、公共交通を軸とした今後 10 年間の交通戦略を考える取組みとして、2012 年 9 月から草津市総合交通戦略協議会<sup>31</sup>で検討が始まっている。

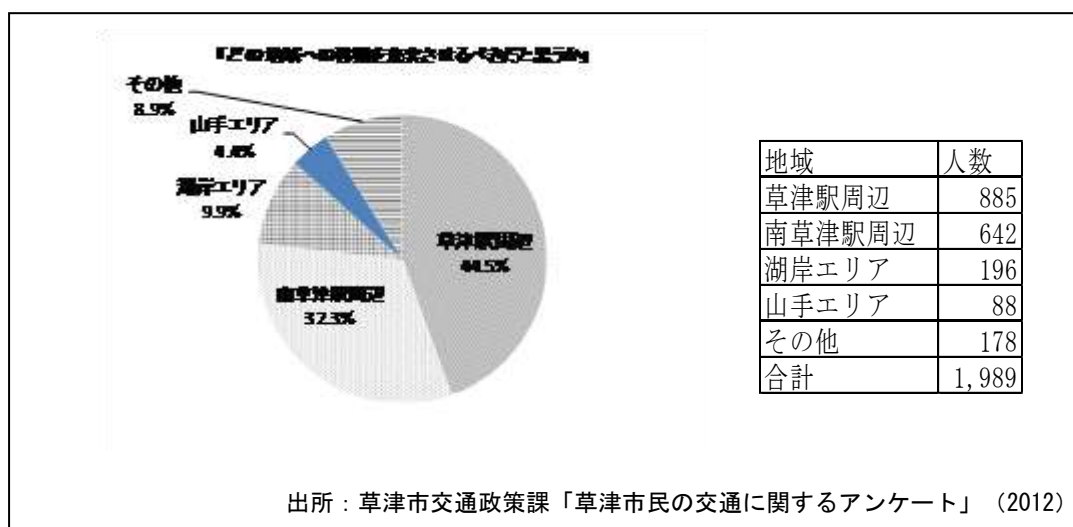


図 2-13 草津市民の交通に対する意識調査結果

#### (4) 立命館大学生の声

立命館大学びわこ・くさつキャンパスは、南草津駅から路線バスで約 10 分の場所に位置している<sup>32</sup>が、電車を利用する学生は、駅と大学を往復するだけで南草津のまちを知ることなく学生生活を終えているのではないかとの懸念がある。実際、大学生活 4 年間のうちで、駅と大学の間を一度も歩いたことがないという学生もいる。

そこで、「立命館大学生が南草津に対して愛着をもち、第二のふるさとといえるようになるためにはどのような体験機会が必要なのか」ということを調査した（参考資料 6）。この調査結果を整理すると、回答は大きく「人、場所、文化」の 3 つ

<sup>30</sup> 草津市交通政策課が、2012 年 11 月から 12 月にかけて、18 歳以上の草津市民 6000 人を対象として、現況の交通行動や公共交通サービスの満足度と重要度を把握することを目的に実施した調査である。

<sup>31</sup> 2012 年 9 月から 2 年かけて行う協議会であり、草津市交通政策課が事務局となり、住民、運輸業者、学識経験者、警察等の 19 名で構成されている。

<sup>32</sup> 時刻表上は 10 分で行けることになっているが、実際は交通渋滞の影響で 20 分程度かかることもある。



の категорияに分類でき、人に出会える機会があること、まちに居場所があること、まちの文化を感じる事が重要な要素であることがわかった。

また別の調査では、立命館大学3年生700名を対象に「滋賀県草津市にはどのような観光資源が存在するか」というアンケートを行っている。回答の多い順に5つ挙げると、①琵琶湖(97名)②学生・大学(93名)③自然(61名)④草津宿本陣(53名)⑤立命館大学(38名)という結果になっている<sup>33</sup>。南草津の特有なものは学生と大学であることが意識調査からもわかった。

立命館大学生から多くの不満の声を聞くのが、南草津駅から立命館大学までの交通の問題である。路線バスは、平日の多いときで、午前8時台のピーク時に1台に50人から70人の乗客が同時に乗車する状況<sup>34</sup>である。そしてまた、幹線道路の交差点の慢性的な交通渋滞は、午前中の講義開始時刻前の到着を急ぐ学生にとってはとくに不満が多いようである<sup>35</sup>。

また、自転車を通学に利用する学生も、南草津駅から立命館大学まで約3kmの道のりのうち約2.5kmの坂道を上っていかなければならない状況であり、不満の声もあるようである<sup>36</sup>。

---

<sup>33</sup> 2012年10月30日、立命館大学経済学部の金井萬造教授の講義の中で、学部生の東野光氏によって調査が行われた。2012年度の環びわ湖大学・地域コンソーシアムでの採択事業でもある。

<sup>34</sup> 近江鉄道株式会社から提供の路線別動態調査集計表より(2012年4月調査分)。

<sup>35</sup> 2012年に立命館大学のサービスマーケティングで草津未来研究所に来ていた学部生7名からの聞き取りによる。

<sup>36</sup> 同上